

上屋・物流一体の航空物流団地運営

■日本航空の「WING NRT」

日本航空とヒューリックが共同運営で合意した、成田空港外の国際物流拠点「WING NRT (Worldwide-cargo Innovation Gate Narita)」(16日付既報)での取り組みは注目点が多い。空港外の国際物流拠点では、共同上屋のエアカーゴシティターミナル(ACCT)やフォワーダーの保税施設などが展開されているが、WING NRTは航空保税上屋と物流施設が一体化した航空物流団地。日航が培ってきた専門知識や経験もベースに、施設・機能が整備されていくもようだ(表参照)。2029年3月末の成田空港の滑走路延伸・新設に間に合うタイミングでの施設竣工を予定しており、日本の航空貨物業界として大きな役割も担うことになる。

解説

新たな空港内外オペレーション

日本の航空貨物業界では、空港内外のオペレーションの在り方が長らく問われ続けてきた。

ACCTの最初は、羽田空港と成田空港への対応だった。1978年5月に成田が開港するまでは、羽田がアジア最大の国際空港で、高度経済成長も背景に成田開港前には、羽田では輸入貨物がランプサイドまで溢れていた。72年3月には官民合同の研究機関である「新空港貨物通関研究会」の貨物シティターミナル構想に基づき、成田開港も見据え、成田空港貨物施設の補完的な役割を担う公共性の強い企業として、「東京エアカーゴ・シティ・ターミナル」(TACT)を設立する。日航も出資したTACTは、成田との中継点である千葉縣市川市原木地区に拠点を構え、73年11月に供用を開始。74年5月から輸入貨物は、羽田の国際空港上屋(IACT)の上屋からTACTへ全面転送する体制とな

「WING NRT」の施設・機能の特徴	
施設・機能	内容
上屋棟	● 上屋サービスと多様なロジスティクスサービスを同一建屋内で提供 ● 建屋内全域が保税地域、成田空港と同等の機能を提供 ● 従来の分散された上屋機能を集約、貨物の受け渡しが1カ所で完結 ● 最先端テクノロジー・機器の導入によりスピーディな搬出入を実現
通関・検疫	● 輸出入通関に加えて空港外での動植物検疫(輸入)を国内で初めて実現予定(関係当局との協議、承認前提) ● 成田空港での混雑を回避し、圧倒的なスピードを実現 ● 生鮮品の輸出入の荷捌き・横持ち回数をミニマイズし、高速・高鮮度輸送を実現
物流棟	● 航空上屋と一体開発した国内初の物流施設 ● 自動化・省力化、コールドチェーンなど高度なオペレーションを支える施設スペック ● パーツセンター、フルフィルメントセンターなど大規模な輸出入拠点に最適 ● 一棟利用、フロア専用利用など高セキュリティな用途に対応可能
一括輸送	● 成田空港および国内空港(羽田空港、関西空港など)とWING NRT間を一括保税輸送 ● 上屋棟と物流棟を結ぶシャトル便が利用可能 ● 顧客各社のトラック庸車が不要

った。

成田開港時には、「仕分け基準」(いわゆる「成田/原木の仕分け基準」)の下で、国際航空貨物が取り扱われた。同基準は、成田発着航空貨物のうち、一部品目(旅客の携行品、旅客機への搭載品、生鮮貨物、空港内貨物、公用貨物)などを除き、TACTで通関するという東京税関の行政指導によるものだ。全盛期の原木ターミナルは世界最大の航空貨物ターミナルとして、入居企業の航空会社、フォワーダー、通関会社、運送会社などを含め4000人が勤務した。

その後、状況は大きく変化する。95年3月末に閣議決定された規制緩和推進計画では、「仕分け基準の解消」と「成田空港周辺の民間施設に対する保税倉庫機能の許可」の2項目が盛り込まれ、96年3月末、仕分け基準が撤廃。フォワーダーが成田空港外に自社保税蔵置場を開設して取り扱う、貨物の「成田シフト」が加速し、TACTは2003年月10末で解散した。

ACCTが立ち上がっていく1990年代は、94年の関西空港開港や日本の輸出航空貨物量が右肩上がり推移している途上でもあり、多様な航

空貨物が取り扱われていた。その後、企業の海外進出などで輸出航空貨物量が減少していく中、ACCTの減少も進む。6月19日に横浜航空貨物ターミナル(YAT)が同日付で会社解散を決議し、同月末で事業を終了したことで、ACCTは無くなった。

TACT清算後、同社の業務は新たに設立された成田ロジスティック・ターミナル(NLT)が継承する。NLTは成田空港内外に上屋を構えて事業を展開していたが2008年4月にJALカーゴサービス(JCG)が吸収合併する。JCGは従来の航空会社の貨物ハンドリングおよび輸入上屋事業に加え、輸出共同上屋事業や空港間輸送などトラック輸送業務なども展開することになるが、日航の経営再建過程で、貨物上屋でのハンドリングや荷役などのコア事業に集中することになり、10年9月には空港外での業務を終了し、年内で空港内も終えた。

「WING NRT」は空港外の大型航空物流団地として整備される。日本の国際航空貨物の中心である成田空港が「第2の開港」に向かう中、改めて空港内外のオペレーション体制が問われていく。(井上昭憲)